

主体性を活かした交流活動を基盤とする国際理解教育の推進

—— 相互ホームステイ実践を中心とした現地校との交流活動を通して ——

前アムステルダム日本人学校 教諭

兵庫県明石市立人丸小学校 教諭 佐藤 明 広

キーワード：在外教育施設，アムステルダム，国際理解教育，国際交流

1. はじめに

現在の小学校教育において、外国語指導を中心とした国際理解教育の重要性が増してきている。私は、平成23年4月より26年3月までアムステルダム日本人学校に派遣されていた。アムステルダム日本人学校は、今年度で創立35年を迎えた在外教育施設である。

その日本人学校の年間行事の中の大きな一つに、小学部～中学部に渡って行われる交流活動がある。下は小学部3年生、上は中学部3年生までが交流を行っており、お互いの学校を訪問し合うことで、あたたかくふれ合う活動が行われている。

その交流活動の中に、小学部5・6年児童による「アウトファールト校との交流活動」がある。私は、派遣2・3年次に6年・5年と続けて高学年を担当したことで、このアウトファールト校との交流を2年続けて体験することができた。その中で特に印象的だったのが、お互いの家に泊まりあう「相互ホームステイ」活動である。この相互ホームステイは、経験する児童に非常に大きな効果をもたらすことを自分自身の経験で深く実感した。日本では、国際理解教育の推進が叫ばれ始めて久しいが、どうしても児童が主体的に行動できる国際理解教育が行えているとは言い難い。この「相互ホームステイ」の実践を振り返ることで、今後の日本での国際理解教育の推進のきっかけを掴むことができればと願う。

2. アウトファールト校交流活動の詳細

交流学习の実態とホームステイに向けた取り組みの流れについて示す。

(1) ホームステイ受け入れまでの取り組み

オランダと日本の学年開始の時期がずれているため、交流活動計画のスタートは2学期からとなる。アウトファールト校の新年度がスタートして間もなく、アウトファールト校にベアリストの提出依頼をする。この作業は交流担当教諭とオランダ語教諭（NL）が連携して行い、アウトファールト校側の担当教諭よりベアリストを送付してもらう形になる。また、訪問・受け入れの順番に関しては、毎年両校で相談して日程を決めている。計画の段階でも双方の学校行事の関係で、10月・12月・1月は避ける（10月は日本人学校の学習発表会と秋休みがあり、12月はシntaxクラス関連の行事、1月はCITOテストが行われるため）ようにしており、11月・2月に分ける形か、11月にまとめて実施する形となっている。

また、相手校のペアが送られてくる前の時点で、日本人学校の家庭にホームステイ受け入れの意思確認を取るようになっている。その際には、3人が宿泊できるかどうか事前に確認し、ベアリストが届いていた段階で弾力的に対応できるように準備を進めている。

(2) 具体的活動日程及び内容 ※ 2012年度交流活動を事例として取り上げる。

【受け入れ】

〈第1日目 11月12日(月)〉

- 10:15頃 5,6年生校庭に待機
- 10:30 アウトファールト校児童到着, 自分のペアを見つける
1～4年児童中学部生徒は廊下で歓迎。歌「チューリップен アウト アムステルダム」
- 10:35 コーヒーブレイク (大教室)
- 10:50 歓迎会 (大教室)
- 11:20 校舎案内
- 11:50 昼食 (大教室)
- 12:15 文化・スポーツ交流会①〈45分交替〉
 - (1) スポーツ (体育館) (2) 調理 (家庭科室)
 - (3) 昔遊び (6年生教室) (4) 習字 (図工室)
 - (5) ゲーム (新ホール) (6) 太鼓 (多目的室)
- 14:50 活動終了, 後片付け
- 14:55 フリータイム
- 15:15 集合, 帰りの会 (大教室)
- 15:30 バスへの乗車開始



日本人学校での活動の様子
(和太鼓演奏)

〈第2日目 11月12日(火)〉

- 8:35 スクールバスで登校 (一緒に大教室で待機)
- 8:45 朝の会 (大教室)
- 9:00 文化・スポーツ交流会②〈45分交替〉 ⇒活動は1日目と同じ (1日目に実施しなかった活動を実施)
- 11:40 フリータイム
- 12:15 昼食 (大教室)
- 13:00 お別れ会 (大教室)
- 13:30 後片付け, 振り返り
1～4年児童中学部生徒は廊下で見送り 歌「アムステルダム日本人学校校歌」
アウトファールト校児童出発 (校庭で見送り)

～グループ活動の流れ～ 男女学年混合の6グループに分けて活動を実施

第1日目	スポーツ	調理	昔遊び	習字	ゲーム	太鼓
12:15～13:00	A	B	C	D	E	F
13:10～13:55	F	A	B	C	D	E
14:00～14:50	E	F	A	B	C	D
第2日目	スポーツ	調理	昔遊び	習字	ゲーム	太鼓
9:00～9:45	D	E	F	A	B	C
9:55～10:40	C	D	E	F	A	B
10:50～11:35	B	C	D	E	F	A

【訪問】

〈1日目 2月12日（火）〉

- 9:30 JSA 出発
- 11:00 アウトファールト校 到着
 コーヒープレイク はじめの会
- 11:30 校舎案内
- 12:00 昼食
- 12:30 外遊び
- 13:00 アウトファールト校活動プログラムに参加
- 15:30 アウトファールト校着
- 15:45 ホームステイ先へ



現地校での活動の様子
(組み紐によるキーホルダー作り)

〈2日目 2月13日（水）〉

- 8:45 登校
- 9:00 アウトファールト校活動プログラムに参加
- 12:15 グループ活動終了
- 12:30 昼食
- 13:00 お別れの会
- 13:30 アウトファールト校 出発
- 15:00 JSA 到着

～グループ活動の流れ～

日程	順番	町探検	空手	マンガ	キーホルダー作り
1日目	活動1	C	D	A	B
	活動2	D	C	B	A
2日目	活動3	A	B	C	D
	活動4	B	A	D	C

※活動時間はおよそ1時間程度。2日目の活動の間にドリンクタイムあり。

3. 交流活動の具体的考察

(1) 受け入れ活動（実施日…11月12日（月）・13日（火））

受け入れ活動は5年生と共に実施し、事前の準備・計画から積極的に合同で行っている。受け入れグループは相手校のペア名簿が届き、ホームステイ受入れ家庭が決まらなければ組めないことから、開始時期はどうしても遅くなってしまいが、決定までの期間、6年生に昨年度の振り返りを行わせ、5年生と力を合わせて迎え入れよう」という意識づけをもたせた。

グループが決まった後は各グループのリーダーを決め、名札・ウェルカムボードの製作や校内案内の練習などを合同で行っていく（授業時間内では活動時間が確保できないこともあって、休み時間を使っての実施が中心となった）。前年度経験している6年生が5年生に内容を伝えながら活動するので、5年生もスムーズに交流活動に取り組むことができ、オランダ語などの練習も一緒に行うなど、共に学ぶこともできていた。受け入れ当日も5・6年生が共に声を掛けあいながら活動する姿が多く見えた。「一緒になって気持ちよく迎え入れよう」という共通の目標を通して、連学年である5・6年生の関係も深めることができる受け入れ活動となった。

交流活動の一番の課題となるのが、ホームステイ家庭の受け入れ決定である。1家庭に2人のオランダ人児童を宿泊させていくことは、海外に在住している保護者にとっても負担を生じさせるものである。その為、選定の

際には事前に受け入れの可否のアンケートを実施し、事前説明会では過去の参考資料を渡すなどして、快く協力してもらえるように努めていた。

保護者にとっても言葉が通じにくいこと、生活・食事のスタイルが違うこと等、負担が大きいことから、複数の家庭でまとまって行動することが多い。ホストファミリーを受けていない児童も友達の家で夕食をとるなどして、どの子も均等な交流ができるようにしている。実際、家での活動が児童にとって最も濃密な交流となっている。

(2) 訪問 2月12日(火)・13日(水)

平成24年度より、アウトファールト校への訪問も5・6年生合同で実施している。このことによって相手校6年生との人数関係もほぼ同じ(日本人学校5・6年生46人、アウトファールト校6年生45人)になり、活動がスムーズに行える利点もできた。ただ、アウトファールト校の6年生の男女比が非常に大きく(男子15人に対して女子30人)ペアの中には、男子2人と女子2人のペアになってしまうことが多くあった。宿泊を伴うペアの選定については、事前に日本人学校としての要望もしっかりと伝えておく必要がある。

アウトファールト校での活動プログラムは、①スネークの街歩きをしながらのウォークラリー ②空手 ③組紐を使用したキーホルダー作り ④マンガの4つの活動を行ったが、どの活動も楽しく児童が興味をもって活動に取り組んでいた。活動を見ていて気付いたことは、指導を全て地域のボランティアが行っていたことである。町探検には1グループの中に保護者が3人ほど付いて案内役を行っていたし、紐を使ったキーホルダーづくりもマンガも空手も全てボランティアの方による指導だった。児童への説明も丁寧であったし、担任が全体の管理に動きやすい状況になっていた。

4. 終わりに

今回、日本人学校での相互ホームステイ交流の実施について、その具体的内容と成果について考えてきた。アムステルダム日本人学校とアウトファールト校とは相互ホームステイ交流が20年以上も続いており、これは本当に素晴らしいことである。昨年度訪問をした際には、自分の子どもがアウトファールト校へ通っていて、日本人の子を受け入れたことがあるという教職員の方がいた。また、スネークの街を歩いている際にも、地域の人から温かい声を掛けてもらうなど、日本人学校との交流が学校のみでなく、街全体に根付いているように感じた。5年生の訪問参加についても、とても貴重な経験ができ有意義であった。これは、アウトファールト校との相互ホームステイ交流を2年単位で考えることができるという面から見ても、非常に大きなメリットとなるであろう。心と心の通じ合いを感じられるこの交流は、アムステルダム日本人学校にとって大きな財産となっていて今後も継続していくべきであると強く感じた。

現地校との交流は、「海外でしか体験できないこと」の最たるものと言えるし、この経験の児童にもたらす効果は計り知れない。こうした、在外教育施設における現地校との相互ホームステイ交流をそのまま日本の教育現場に当てはめることは難しい。しかし、交流活動を通して海外の子ども達が感じていた「とにかく行動次第でいんなことが可能になる」「言葉が通じれば世界が広がる」「人を知れば文化が分かり、文化を知れば人が分かる」ことを日本の子ども達にもしっかりと伝えていきたいと思っている。